

時が導く解釈効果
— 進行形の場合 —

山 田 仁 子

徳島大学教養部紀要（外国語・外国文学）第2巻 別刷

1991年3月

Journal of Foreign Languages and Literature

College of General Education

University of Tokushima

Volume II

March 1991

時が導く解釈効果

— 進行形の場合 —

山 田 仁 子

Explanatory Effects Induced by Temporal Relations
— A Study on the Progressive Aspect —

Hitoko YAMADA

Abstract

The progressive aspect (as demonstrated by Mohri(1980) and Ohye(1982)) can be used as a means of commenting on an act which has previously appeared in the discourse. In this paper I investigate the way in which the temporal relation between two acts, as indicated by the progressive aspect, makes it possible for the act described in the progressive to represent an interpretation of the other act presented before.

In Chapter 1, I consider how an act in the progressive is grasped by the speaker in terms of time. And in Chapter 2, I argue that this plays an important role in the “explanatory” use of the progressive, and leads to some different shades of meaning in interpreting the act concerned.

序

進行形は、進行形を用いずに表現された、あるいはただ会話の場面などで行われただけで言葉では表現されていない行為を、解釈しなおすのに用いられることがある。¹⁾ 次に挙げるのがその例である。

(1) ... if a young woman of twenty-four *marries* a man close on eighty, it's fairly obvious that she's *marrying* him for his money. (大江, 97)²⁾

(2) “Let me be clear, Madame. What *are* you *asking* me to do?”

“I *am telling* you that my mother-in-law died a natural death and I *am asking* you to accept that statement.”

“Let us be definite. *You believe that your mother-in-law was deliberately*

1) このような例を、大江(1982)は“等価の表現”として、毛利(1980)は進行形の“行為解説”として説明している。

2) 問題となる進行形の部分、進行形により解説されている部分、および議論の中で重要な意味を持つ部分は、イタリックで示している。

killed, and you are asking me to condone — murder!"

"I am asking you to have pity!

(*Death*, 136-7)

(3) I think in the *questions* you sent me, you *were probing* my ideological positions.

(*Time* 90.6.4., 11)

(1)では、if節内に示された行為が、続く進行形を含む部分で解釈されており、(2)のやり取りでは、二人は一方の人物の発言に対して、それがどういった意図による行為であるか明確にしようとしている。(3)では、質問について解釈を与えている。

この種の進行形を、毛利(1980:116)は発生的には動名詞で、

Doing A is Doing B (Aすること=Bすること)

というパターンから移行したものであるとし、伝える意味も、二つの行為を等号的に結びつけるものとして定型的に捉らえている。しかし、進行形を用いることにより解説的意味あいが出ている場合でも、A=Bと言い切れるほど、二つの行為が一致していると言えないことは多い。解説の意味あいを伝える進行形も、特別の進行形として捉える必要はなく、解説的意味あいは、進行形一般に見られる性質と、語の意味など文中の他の要素とから、説明できるものと思われる。本稿では、進行形に焦点を絞って、進行形を用いれば何故このように解説する意味あいを出し得るのか、明らかにしたい。

進行形による行為解説で重要な鍵となるのは、進行形における時間の問題である。まず第一章では、進行形全体における時間の問題について検討する。次に第二章では、この進行形の時間的特徴がいわゆる解釈を与える進行形を可能にしていること、また解釈とは言っても必ずしも解釈を与えられる行為と与える行為が完全に一つに重なるとは限らず、場合によって微妙に異なるさまざまな意味あいを表し得ることを論じたい。

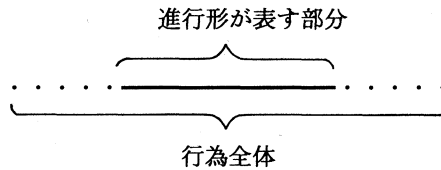
1

本章では、まず進行形一般に見られる時間の問題について、検討する。

進行形により表される行為やできごとと共通して言えるのは、時間に関して、次の図に示すような捉え方をされているということである。つまり、行為の始まりと終わりの部分が話者の意識内では存在しないのである。³⁾

3) 大江(1982)は、進行形の基本的意味を不完結性(imperfectivity)であるとして、その説明のなかでこの図を用いている。しかし、“完結”という表現を用いていることからわかるように、重点的に扱われるのは行為やできごとの終わりの時点あたりに関することであって、始まりの時点に関しては、あまり触れられていない。

(4)



話者の意識がないというのには二つの場合がある。一つは話者が始まりの時点が既に過ぎ去っている、あるいは終わりの時点がまだ来ていないとはっきり認識している場合であり、もう一つは話者の意識が行為の継続部分に集中するあまり、行為が始まったり終わったりといった変化の部分、意識していない場合である。

ただし進行形が実際に用いられる場合には、(4)の図の中のどこか一部に焦点があてられる。始まりの部分と継続している部分と終わりの部分という三つの部分のいずれかである。始まりの部分と終わりの部分に焦点がある場合には、行為が既に始まっている、あるいはまだ終わっていないというはっきりとした認識があるのに対し、継続部分に焦点がある場合にはそうした行為の開始や終了といった変化の部分について意識されていない。次にそれぞれの場合について具体的な例を挙げて、説明を加えたい。

1-1

まず、始まりの部分に焦点がある場合を次に挙げる。

(5) Politically, we *are already entering* a new phase that should be characterized by the establishment of permanent security structures instead of NATO and the Warsaw Treaty Organization. (Time 90.6.4., 17)

(6) Weinstein rang the bell to Harriet's apartment, and *suddenly* she *was standing* before him.

(Feathers, 198)

(5)では、“already”という語も示すように、新しい局面に突入する(enter以下)という変化が既に起きていることを主張している。また(6)では、進行形が用いられることによって、事の始まりが知覚する間もないくらい突然であったことを表している。“suddenly”という語もこうした意味あいと合致している。二つの例ともできごとや行為の開始時点が既に過ぎていることが、進行形により表されているのである。

1-2

次に、継続部分に焦点がある場合を見る。

- (7) She *was taking* a medicine. (Death, 22)
- (8) Everyone remembers where we stood *in the mid-'80s*. The arms race *was gathering* momentum. (Time 90.6.4., 14)

(7)は、薬をのむという習慣があったことを伝えている。ここでは行為の始まりや終わりは重要でなく、継続していたことだけが重要である。(8)では、80年代半ばという時期に継続して起きていたことを伝えている。それがいつ始まりいつ終わったのかについては、全く問題にしてはいないのである。

始まりや終わりを示す語句 (from や to) は、進行形とは合い入れないと言われる。進行形では表される行為の始まりと終わりの時点が話者に意識されていないことを考えれば、これは当然のことと思われる。例えば、次の(9) a、bを較べると(9) aの方が、一般には自然である。

- (9) a. They played tennis $\left\{ \begin{array}{l} \text{for two hours} \\ \text{from ten to twelve} \end{array} \right\}$ yesterday.
- b. ?? They were playing tennis $\left\{ \begin{array}{l} \text{for two hours} \\ \text{from ten to twelve} \end{array} \right\}$ yesterday.
- (大江, 55)

しかし、始まりや終わりの部分に焦点をあてるのではなく、継続部分に焦点をあてた進行形であれば、始まりや終わりを示す語句を共に用いる事も可能となる。次に挙げる二つの例では、始まりを示す“from”や終わりを示す“till”が進行形と共に用いられている。

- (10) *From* 1970-73 he *was acting* chief of the party propoganda department, where he won favor with liberal intellectuals. (Time 90.7.2., 11)
- (11) I *was doing* very well *till* you came along. (Feathers, 22)

どちらの場合も行為や状態がいつ始まったかということや、いつ終わったということよりも、長く継続していたことの方に主眼は置かれている。これらの例における“from”や“till”は、あくまで継続状態の続いた期間を示していて、状態の変化した時点を示すものではない。ただ、(11)のような場合、進行形により継続していたことを言うことによって、かえってその状態を中断させた時点が強調されているとも言える。(9) bも、何か事件が起きた時の彼ら (they) のアリバイが問題となる場合、つまり彼ら (they) に関して10時から12時までどういった行為が継続状態にあったかを問題とする場合ならば、進行形が用いられていてもよくなる。この場合、10時や12時というのは、行為の始まりの時点や終わりの時点を示してはおらず、実際に行為が始まったのは、10時より前の8時かもしれないし、終わったのも12時より後の13時かもしれない。

1-3

最後に、終わりの部分に焦点がある進行形を見る。この場合は、行為がまだ終わっていないことが伝えられる。次に挙げる例がこれに当てはまる。

(12) *he is still working* at McDonald's. (Feathers, 5)

(13) ILSA and LASZLO have paused there in front of the linen bazaar. LASZLO *leaves* ILSA and *is walking* toward the Blue Parrot Café.

Cut to:

Med. shot. RICK and SENOR FERRARI. (Casablanca, 149)

(12)では“still”が現れているが、これは進行形が行為の終わっていないことを伝えるという事実と合致している。(13)は、映画の一場面であるが、場面が変わるところで進行形が使われていることが、注目に値する。この前にある“leaves”という単純形の表す行為と“walking”という進行形の表す行為とでは画面に写される範囲が異なる。“leaves”が行為の始まって終わるまで全体が写ることを伝えるのに対し、“walking”の方は、行為がまだ終わってしまわないうちに、画面が変わることを伝えるのである。

以上、進行形では、行為が既に始まっていること、継続中であること、まだ終わっていないことの三点のいずれかに焦点があてられることを見てきた。ただし、進行形が焦点をあてる部分は、いつでも必ずどれか一つだけに限定されるというわけではない。例えば次の例では、始まっていることとまだ終わっていないことの両方に焦点があてられている。

(14) Because the effects of sunlight on the skin are cumulative and usually require years of exposure before malignancy begins, the results *are just showing up* now. (Time 90.7.30., 45)

(15) We *are only now really beginning* to feel that perestroika is a revolution. (Time 90.6.4., 18)

(14)にある“show up”や(15)の“begin”という語は本来それだけでも短い時間に起きる変化、事の始まりを表す語である。それが進行形になることにより、始まりつつあるが、完全に始まったとも言い切れない微妙なところにあることを伝えているのである。

1-4

以上述べてきたように、進行形は、行為に対する始まりと終わりが無いという捉え方を反映する表現形式であり、かつ、そういう捉え方をした行為の内の三つの部分、すなわち、始まりの部

分（正確には、始まりの瞬間は既に過ぎたというところ）と、継続の部分と、終わりの部分（正確には、終わりの時はまだ来ていないというところ）の何れかに焦点をあてるものである。

この、進行形が一つの行為のうちの三つの部分の何れかに焦点をあてるという事実は、Jespersen (1949: 180) や、Quirk *et al.* (1985: 209) の“temporal frame”、大江 (1982: 58) の“基準の時”等の概念により示される事実を、より明確に説明できると思われる。これらの概念はすべて、進行形で表される行為に、基準となる時点が存在する事を指摘するものである。また同時に、これには例外があることも Quirk *et al.* (1985: 209) が指摘している。次の例(16)において、基準の時点を見出すのは難しい。

(16) We were watching the match all afternoon. (Quirk *et al.*, 209)

しかし、基準となる時点が存在するものとししないものの違いが、どこからくるかについては、説明されていない。

進行形に基準の時点があるかないかは、その進行形が行為のどの部分に焦点をあてるかということと対応している。基準の時点が存在するのは、三つのうち、始まりの部分か、あるいは終わりの部分に焦点が置かれている場合で、継続部分に焦点が置かれている場合は、基準の時点は必要ない。既に始まっているとか、まだ終わっていない、という見方をする時にだけ、そういった見方のより処となる時間的な基準の位置が特別に意識されるのである。先ほど挙げた例(6)、(7)、(13)（ここでは(17)、(18)、(19)とする）をもう一度ここで見ると、

(17) (=6) Weinstein rang the bell to Harriet's apartment, and *suddenly she was standing before him.*

(18) (=7) She *was taking* a medicine.

(19) (=13) ILSA and LASZLO have paused there in front of the linen bazaar. LASZLO *leaves* ILSA and *is walking* toward the Blue Parrot Café.

Cut to:

Med. shot. RICK and SENOR FERRARI.

(17)では、ドアのベルを鳴らしたすぐ後が基準の時点となっていて、その時から見ると、“ハリエットが彼の目の前に立つ”というできごととは既に始まっていたことをこの文は表している。(18)では、過去に薬をのむという習慣が継続した事実があったことを表していて、それが厳密にいつ起きたことかについては、ここでは、問題とされていない。はっきりとした基準となる時点はこの場合存在しないと思われる。(19)では、映画の画面が変わる時が基準の時点となっている。その時点に立つと、ラズロがカフェに向かって歩くという行為はまだ終わっていないというこ

とが、行為の終わりの部分に焦点をあてた進行形で表されている。同じ進行形でも、(17)や(19)のように行為の始まりの部分や終わりの部分に焦点が置かれている場合に、基準の時点が必要なのであって、(18)のように行為の継続部分に焦点が置かれている場合には、必要ないのである。

2

第一章において、進行形には行為のどの部分に焦点をあてるかという点で三通りあることが明らかになった。進行形が行為を解説する場合、この三つのうちどの部分に焦点をあてているかで、伝える意味あいはかなり違ってくる。本章では、それぞれの場合について、各節で詳しく見ていきたい。また同時に、どのようにして行為を解釈することになっているのかについても明らかにする。

2-1

始まりの部分に焦点がある行為解説の進行形としては、次のような例が挙げられる。

(20) I should *be cheating* you if I *married* you, and I will not cheat. (Scheffer, 86)

(21) I took it from him and *winked*. I *was beginning to like* him. (Feathers, 34)

始まりの部分に焦点を置く進行形は、基準となる時点において、行為Aは既に始まっていることを表す。この基準の時点は、Aとは別の行為Bの成立する時を示すならば、「行為Bが成立する時には、行為Aが始まっている」ことを表すことになる。つまり、二つの行為AとBが時間的に重なることが表される。(20)でif以下に示される“marry you”という行為が成立する時が、ここでは進行形の基準の時点となっており、その時点から見ると、“cheat you”という行為は、既に始まってしまっていることになってしまうということを、この文は表している。行為の始まりの時点が既に過ぎ去っていることをこの例の進行形は示すので、非進行形の場合には伝わる、行為を始めようという意志も、ここでは示されない。よって、そうしようという意図もないままに、行為は始まってしまふ、一つの行為が成立すれば必然的に、本人の意志がどうであろうとも、もう一つの行為も成立してしまうという意味あいが表される。この文が伝える意味は、“私があなたと結婚するとしたら、それはあなたをだまそうと意識して行動しなくとも、だますという行為が成立することになってしまう”となるのである。ここで進行形を用いず“I should cheat you if ...”とすると、この行為は、“marry you”が成立した後に続いて私“I”の意志によって起きる、時間的重なりのない全く別の行為ということになってしまう。この例において進行形は二つの行為が時間的に重なりをもつことを表しており、この重なりが行為解説の意味あいを表現するのを可能にしているのである。

(21)の例では、ウインクした時が進行形の基準の時点で、“彼を好きになり始める”という行

為、あるいは変化が、この時点で既に始まっていたことを、この文は伝えている。だから“私が彼にウインクしたのは、彼を好きになり始めていたからだ”という行為解説の意味あいも伝わる。

ただし、行為解説の意味あいが出るのには、時間的重なりの他に、行為の主体が何であるかということと、動詞の関係がどうなっているかという点も重要な要素として働く。上の二つの例両方に言えることであるが、解説する方もされる方も、行為は二つとも主体が同一である。また“marry”と“cheat”、“wink”と“begin to like”という動詞の組み合わせでは、一方が客観的動作を表すのに対し、もう一方が主観的な意図を含む行為を表している。こうした要素が組み合わさって、一人の人物がある意図を持ってある行動をとる、という解釈が生まれている。

次の例(22)では、進行形が行為の開始時点に焦点をあて、二つの行為の重なりを示してはいるが、主体は異なり、動詞は二つとも客観的行動を表している。よってここでは、二つの行為は全く別個のもので時間的重なりがあることだけが、伝えられる。

- (22) He *shot a quick sideways glance* at Sarah. She *was watching* the Boynton family — or rather she *was watching* one particular member of it. (*Death*, 11)

2 - 2

継続部分に焦点がある進行形が行為を解説すると感じられる例を次に挙げる。

- (23) *In seriously using* the sentence, ‘The whale struck the ship’, ... I *was using* each of these expressions [i.e. ‘the whale’ and ‘the ship’] in a uniquely referring way.
(毛利, 116)
- (24) (=1) ... if a young woman of twenty-four *marries* a man close on eighty, it’s fairly obvious that she’s *marrying* him for his money.
- (25) The Stalinist model of socialism should not be confused with true socialist theory. As we *dismantle* the Stalinist system, we *are not retreating* from socialism but *are moving* toward it.
(*Time* 90.6.4., 15)
- (26) To put it briefly, what we’re talking about is a *shift in direction* comparable in magnitude to the October Revolution, because we will *be replacing* one economic and political model with another.
(*Time* 90.6.4., 11)

毛利が“行為解説”として扱う進行形や、大江が“等価の表現”として挙げる進行形は、この継続部分に焦点をあてた進行形である。この場合には解説される行為と解説する行為はほぼ完全に重なる。(23)では“in”という期間を表す前置詞が現れていることが、この進行形が継続部分に焦点をあてたものであることを示している。“in”以下が、進行形の表す継続状態の続く期間を示

す。“in”の意味も加わって、この構文は、[“in”以下の行為が成立する間は、進行形により表される行為が継続する]ということを伝える。“in”以下が示す範囲を越えて進行形の表す行為が成立するかどうかについては、この構文は全く関与していない。現実世界の事実がどうなっているように、話者の意識の中にはこの期間を越えた行為は存在していない。こうして、少なくとも解説される行為が成立する期間内(“in”以下)に関しては、解説される行為(“seriously using the sentence”)と解説する行為(“using each of these expressions ... in a uniquely referring way”)との間に時間的ズレがないことが、この構文から表されるのである。更に二つの行為の重なりが、時間的な面だけでなく、現実でも同一のものとして重なっていることが、同じ動詞“use”が使われていることも含めた文の内容の一致から示されている。

(24)から(26)の例についてもほぼ同様のことが言える。進行形の表す継続状態の続く期間は、(24)では“if”以下のできごとが、(25)では、“as”以下のできごとが、(26)では、“a shift in direction”が起きている期間に重なっている。

行為の継続部分に焦点をあてた進行形が行為解説に用いられる場合だけ、解説される行為と進行形を用いて解説する行為とが時間的にはほぼ完全に一致すると言える。一口に、行為を解説すると言っても、正確にはこの種の進行形の場合にのみ、行為Aは行為B(=進行形で表される行為)である、つまりA=Bであると、言い替えがなされていると言えるのである。

こうした、継続部分に焦点がある進行形で行為解説を行う場合には、極めて進行形になりにくい動詞も、進行形となる。

- (27) and in this case the sentence has not been used to talk about something, it has only been taken as an example. *In knowing* what it means, you *are knowing* how it could correctly be used to talk about things ... (大江, 98)

know は、そのままの形で“状態”を表し、始まりや終わりといった変化する部分を含まない動詞である。だから基本的には進行形にする必要は起きないはずである。しかし、単純形で表される“状態”と進行形で表される“継続状態”とでは、性質に違いがあると思われる。単純形で表す状態が、時間的に区切りのつけにくい広がりを持つものに対して、進行形で表す継続状態は、区切りをつけることができる性質のものとして捉えられている。上に挙げた例(27)でも、進行形で表される“know how it could correctly be used to talk about things”という状態は、時間的区切りをつけられる継続状態として捉えられている。そのため“*In knowing* what it means”で示された“その意味を知る”という行為の成立する時間の枠の中におさまるものとして、扱えるのである。

2-3

終わりの部分に焦点がある行為解説の進行形は、会話の場面で非常に多く見受けられる。下にその例を挙げる。

(28) What *are* you *suggesting*?

(29) Lord: "Put an alligator over the pocket."

Man: "Pardon me, Lord?"

Lord: "Just do what I'm *telling* you. You won't be sorry." (Feathers, 24)

(28)では、“you”の発話自体は既に発せられている。また(29)でも、進行形を含む文が語られる段階では、神様(Lord)の命令の言葉はやはり既に発せられている。もしNettaの言葉、神様の命令を直接的に表すのであれば、現在進行形の形は、ここでは使えないはずである。ここで進行形が現れているのは、進行形の部分が発話する行為そのものを直接的に表すのではなく、発話するという行為の裏にあるとも言えるべきもう一つの別の行為を、表しているからである。(28)でNettaの発話は既にすんでも、Nettaの何かを“suggest”しようという意図は、まだ終わっていないと解釈できる。あるいは聞き手の側で、Nettaの発話の内容を理解できないために、“suggest something”という行為が完了できずにいるとも言える。(29)で神様の命令は発せられはしたが、その命令は、男が売るシャツのポケットにワニ(胸のロゴマーク)をつけよという奇妙なものであったために、まだそれは命令として男にきちんと受け止められてはいない。神様が自分の言う通りにさせようという意志は、まだ続いていると考えられる。会話がスムーズに流れている場合なら、発話が発せられ聞かれた時点で果たされるであろう発話の目指す本質的な行為が、こうした例ではまだ果たされずにいる。相手のあるいは自分の目的とする行為がなかなか終わらないという、いらだちにも近い感情が、行為の終わりの部分に焦点をあてた進行形によって伝えられている。

次に挙げる例では、動詞は“say”で、発話自体を表す場合と同じである。だが、やはりこの例でも進行形部分は発話自体のことを言っているのではなく、“mean”に近い、“発話により伝えようとする”といった、具体的な発話自体とは異なる行為を表している。

(30) Kleinman: How can it go on forever? Sooner or later it must stop. ...

Gina: *Are you saying* the universe is finite?

Kleinman: *I'm not saying* anything. I don't want to get involved.

(Feathers, 72)

Kleinmanの言葉はGinaにはまだ理解されず、発話自体は終わっても、発話の一般的な目的で

ある、何かを伝えようとする意図は、達成されていない。Kleinmanも自分の話を伝えようとする意志を、後になって否定しようとしている。

具体的行為が終わってもその行為の裏にある意図するといった行為まで終わるとは限らない。具体的な行為の裏にある意図など、一つの行為の本質的側面が、目に見えたり耳に聞こえたりする表面に現れる行為とは別個の、しかし時間的重なりを持つ行為として、表現されるのである。

ただし、(28)～(30)の例において行為解説の意味あいが出る仕組みは、第一節、第二節で見た例に較べると、やや複雑である。これらの例の進行形で一番の焦点がおかれるのは、既に論じたように行為の終わりの、まだ終わっていないという部分である。しかし、この進行形はまた同時に行為を既に始まっているものと捉えていることも示している。(28)～(30)の進行形の基準となる時点は、“今”（進行形の発話時）であり、この時点において行為は既に始まっていて、かつ、まだ終わっていない。行為の重なりは、この内の、“既に始まっている”というところから推理され理解されるのである。話者の意識に始まりの時点が存在しなくても、“既に始まっている”と示されると、これを聞く者は、いつ始まったのかと考える。そして進行形になっている動詞が発話に関するものであることから、それがさっき聞いた発話の時に始まったのだという理解に達するのである。

“既に始まっている”ことから行為解説の意味あいが出るのは、単純過去形でも可能である。単純過去形は“もう終わっている”ことを表すが、それはまた“既に始まっている”ということでもある。過去にあったどのことについて言っているのだろうと考えることから、聞き手はあの発話のことだと、推論することがあるであろう。結局、一つの発話に対して、これを聞いた者は次の三つの文で応じることができる。

- (31) a. You lied.
 b. You are lying.
 c. You were lying.

上の三つの文は、どれも前に出た発話を解説していることでは共通している。しかし伝える意味あいはそれぞれに異なる。aでは相手の発話を解釈してはいるが、その解釈はaの文を発する時点ではもう既にすんでしまっている。解釈される具体的な発話自体とは既に切り離され、一つの独立した事実として、「うそをついた」という行為が伝えられている。これに対し、bとcでは「発話する行為」と「うそをつくという行為」は切り離されず結びつきがあるものとして捉えられている。ただbの方は、発話自体はすんでも、うそをつく行為はまだ今も続いていると捉えられている点で、cとは異なる。単純過去形のaと進行形のb、cの違いは、それぞれの文が発せられているその時点で、解釈がすんでしまっているか、今なされているところかという点である。

3

以上、本論では、進行形が談話の他の箇所に見れる別の行為を、いくつかの異なる意味あいを含ませながら解説することが、進行形における行為の時間的捉え方により可能となっていることを論じてきた。

進行形により表される場合、行為は話者の意識の中で、始まりの部分と終わりの部分が存在していない。これは進行形全体に共通する性質である。しかし、この「始まりと終わりの部分が存在しない行為」という全体像の中で、どの部分に焦点をおいて進行形が用いられるかは、時により重なる。1) 行為が既に始まっているという部分、2) 継続している部分、3) まだ終わっていないという部分、の三通りの可能性が存在するのである。

この三つの部分のどこに焦点があてられるかで、進行形により解説される行為と解説する行為の時間的重なり方は変化する。この焦点の位置、時間的重なり方により、醸し出される解説の意味あいも異なってくる。進行形が焦点をあてる部分ごとに伝わる解説の意味あいを整理すると、次のようになるであろう。ここでは便宜上、解説される行為をA、進行形で表され解説する方の行為をBとする。

- 1) 焦点が、行為の既に始まっている部分にある場合：

行為Aが成立すれば、当然行為Bも成立することになる。(A→B)

- 2) 焦点が、行為の継続部分にある場合：

行為Aは行為Bに等しい。(A=B)

- 3) 焦点が、行為のまだ終わらない部分にある場合：

行為Aは行為Bを実行する過程で行われる。(A⊂B)

進行形では継続部分に焦点があてられる場合以外は、基準の時点が存在することを第一章で述べた。これにより、基準の時点になる行為があれば、その行為は、進行形により表される行為と時間的に重なるということになる。この行為の時間的重なりに、文中の語の意味等他の要素の助けも加わって、行為の本質的部分まで重なることが表されると、基準の時点になっている行為は進行形により表される行為によって解説されることになるのである。

また、進行形は基準の時点となる行為だけでなく、他の時点の行為との重なりも許す構文である。行為が既に始まっていてまだ終わっていないことを表すのであるから、その「始まった時点」から「終わる時点」までの間に成立する行為が他に存在するならば（解説されることになる発話がこれにあたる）、その行為と時間的に重なることになる。他の行為との時間的重なりを許す構文であることが、進行形により行為を解説することを可能にしているのである。

参考文献

- Comrie, B. (1976), *Aspect, An Introduction to the Study of Verbal Aspect and Related Problems*, Cambridge University Press.
- Ehrlich, S. (1990), "Referential linking and the interpretation of tense," *Journal of Pragmatics* 14, 57-75
- Jespersen, O. (1949), *A Modern English Grammar on Historical Principles, Parts I-VII*, Munksgaard.
- 毛利可信 (1980), 『英語の語用論』大修館書店
- 大江三郎 (1982), 『動詞(I)』(講座・学校英文法の基礎 第四巻) 研究社出版
- Parsons, T. (1989), "The progressive in English: events, states and processes," *Linguistics and Philosophy* 12, 213-241.
- Quirk, R. *et al.* (1985), *A Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman.
- Scheffer, J. (1975), *The Progressive in English*, North-Holland Publishing Company.

例文の出典

- Feathers* / Allen, W. (1972), *Without Feathers*, Sphere Books Limited.
- Death* / Christie, A. (1937), *Appointment with Death*, Berkley Books.
- Casablanca* / "Casablanca" in Thomas, S. (ed.) (1986), *Best American Screenplays*, Crown Publishers, Inc.
- Time*, 4 Jun. 1990.
- _____, 2 Jul. 1990.
- _____, 30 Jul. 1990.